資料１

第3回宮城県消防操法大会のあり方検討会

本日の進め方とゴールの共有

1　検討の進め方

1.本日の検討会の位置づけとゴール

【本日決めること】

「議論のたたき台（問いかけの軸）」となる素案（1案）を選定し、当該案に対する議論点を整理する。

なお、本日の選択は、検討会としての意見であり、当該案及び抽出した議論点に関する、幅広い範囲からの意見確認については、11月に関係各所への照会により、実施する想定です。

2.意見照会の実施概要

本日の検討会で選択した素案（1案）に対し、関係機関から広く意見照会を行い、その内容を検討材料として、第4回検討会にて「見直し案（暫定案）」を決定します。

意見照会においては、立場ごとの多角的な視点を把握するため市町村・各地区支部に加え、現場団員個人の声を直接拾い上げる県消防課HPへの特設照会ページの設置を組み合わせて実施します。

3.前半で選択肢を一本化する狙い

① 議論の明確化：たたき台が1つあることで、議論・意見集約がしやすくなる。

② 論点の具体化：その案に必要な「全国大会への代表選考」や「運営体制」などの具体的な制度設計の議論に入ることが可能

※ 今後の予定：12月（暫定案修正）⇒翌年2～3月（最終報告承認）へむけ、検討期間を確保する

2　選択肢の比較　【選択肢A】競技種目の1種目化

■　現行の2種目同時開催をやめ、その年の全国大会の出場割当種目に合わせた「どちらか1種目のみ」を県大会で開催する。

【競技内容】
・競技規則や厳格な減点審査の仕組み自体は現行のままとする。

メリット

- 実施する種目が半分（1種目）になる。
- 県内全体の出場団員数、指導する消防職員の派遣負担が大きく減る。
- 当日の運営人員や予算を物理的に大きく軽減できる。

デメリット

- 競技内容自体は変わらないため、出場することになった特定の団員の精神的・肉体的負担は現行と変わらない。
- 割当種目がポンプ車となった年に、小型ポンプしか配備されていない地域の出場機会が失われる等、開催競技に伴う不公平感が生じる。

方向性絞り込み後の検討事項

1. 全国大会代表の選考
2. 大会会場の選定ルール
3. 開催事務・運営体制

2　選択肢の比較　【選択肢B】県大会廃止・各地域での訓練シフト

■　県大会そのものを完全に廃止し、これまで大会に割いていたリソースを、市町村・分団単位の日常訓練（各地域の特性に応じた山林火災対応、水害対応、結索、機械器具点検など）の充実や講習会の実施へシフトする。

メリット

- アンケートでも多く意見のあった「大会廃止」に応える形となる。
- 大会に向けた「選手確保の労力」「家庭や仕事への過度な支障」「精神的負担」が解消する。
- 一部の固定選手だけではなく、団員全体の消防・防災技術を地元で広く底上げできる。

デメリット

- 他地域・他分団と切磋琢磨し技術を検証し合う機会が失われる。
- 組織のモチベーション維持や連携力低下が懸念される。

方向性絞り込み後の検討事項

1. 全国大会代表の選考
2. 地元での「実践訓練」の充実